

優良賞

最後の季節に

フィン チュック リン
HUYNH TRUC LINH

朝、目が覚めたら窓に強い風が吹き付けていました。外に出てみると昨夜は白く咲いていた桜の花は風に吹かれ、飛び散っていました。桜の季節も終わってしまいました。道端に座って、持っていたカメラを見ながら、不意に泣きたい気持ちになりました。

時間を逆戻りして、過ぎ去った日々のことを思い出してみると、私は悲しい気持ちになりました。日本に来た日から私はとても努力し、たくさん勉強もしました。私たちを支えてくれる人もたくさんいました。とくに私たちのことを心配し、世話をしてくれるおじさんにはとても感謝しています。私が日本語の三級能力試験に合格した時、おじさんはとても喜んでくれました。試験の結果を知って私は心に夢を抱くことができました。私たちは仕事や勉強を頑張っています。おじさんはそんな私たちにプレゼントをくれました。富士山への旅でした。でも私は出来ないと思いました。そんな私におじさんは「千里の道も一歩から始まる。頑張って。」とあたたかく励ましてくれました。そんな日本の時間が私の夢を大きくしてくれました。周りの人たちの親切やあたたかい気持ちが日本を第二の故郷のように思わせてくれました。

しかし、そんな時に私の家族に大変なことがおこりました。父と母が病気になってしまったのです。私は早く家族のもとに帰りたいと思い

ました。一緒にいて家族の力になりたいと思いました。でも結局、私の願いは叶いませんでした。私は悲しみの中にいました。そんな私におじさんはご飯をごちそうしてくれたり、メールで励ましてくれたりしました。私はだんだん元気になりました。辛いことを乗り越えて私はまた夢を見ることができました。

私の知識不足で受験を逃してしまったとき、落ち込んでいる私をおじさんが買い物にさそってくれました。おじさんは私にカメラをプレゼントしてくれました。びっくりしたのは全部五百円玉で払ったことです。おじさんは店員さんに「毎月貯金していたお金で娘にプレゼントを買ってあげる。」と言いました。お店から出てきたときに、おじさんは私にカメラを渡して「一つずつ石を積んでいけば、いつか山になる。」そして「このカメラで色いろな思い出を撮っておいてください。」と言いました。私は泣き出しそうになりました。

季節から季節へといろいろな思い出とともに移り変わっていきます。何百枚という写真には嬉しかったことや楽しかったことなどが日記のように書かれています。私の家からおじさんの家まで桜の並木が続いています。おじさんは私たちと一緒に、桜の前で写真を撮るのを楽しみにしていたのに、無情な風が最後の桜のはなびらを散らしてしまいました。おじさんとも、もうすぐお別れです。残り少なくなった日本での日々を写真のように私の心に残しておきたいと思います。

区 分	技能実習生
国 籍	ベトナム
職 種	プリント配線板製造
受入れ企業	大陽工業株式会社 羽生事業所
受入れ団体	関東情報産業協同組合 第2国際部